

# 兵庫教育大学が取り組む 「理論と実践の融合」

中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(平成18(2006)年)では、「教員に対する揺るぎない信頼を確立するための総合的な改革の推進」のための方策として、「教職課程の質的水準の向上」や「教職大学院の創設」等が提言され、その重要なポイントとして「理論と実践の融合」が説かれています。特に教職大学院のカリキュラムの構築に関し、「学校現場における実践力・応用力など教職に求められる高度な専門性を育成するためには、学校教育における理論と実践との融合を強く意識した体系的な教育課程を編成することが特に重要」とされ、従来の教員養成カリキュラムの考え方からの大きな転換点となりました。また、同答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24(2012)年)では、大学と学校現場および教育委員会による連携・協働が「理論と実践」を効果的に融合させ、往還を図ることができると提言されています。

教育をめぐるこのような社会的背景の中で、兵庫教育大学では、常に学校現場や教育委員会との連携・協働を図りながら、その時々々の教育をめぐる課題や社会的ニーズ等の解決、さらには学校現場における実践の改善に貢献するための施策に取り組んできました。

平成23(2011)年度から開始した『「理論と実践の融合」に関する共同研究』もその取り組みの一つです。本学独自の取り組みとして開始して以来、今日までの5年間に取り組んだ共同研究は24件に達します。そのテーマは「幼保一体化」「震災後の子どもの心のケア」「障害児のインクルーシブ教育」「いじめ予防」など、学校現場からの要請に応える内容ばかりです。これらを大学だけでなく学校現場、教育委員会との共同で取り組んできたことは極めて重要です。また、終了した共同研究がさらに新たな取り組みに発展している例も数多く、このことは本学の誇るべき成果であると考えています。

現在、11件の共同研究がまさに進んでいるところです。これらの取り組みが今後の学校現場における教育の質向上に大きく貢献することを期待しています。

学長 ふくだ みつひろ  
**福田光完**

